

## カンボジアにおける幼児教育

清水由紀(埼玉大学教育学部助教授)

外山紀子(津田塾大学学芸学部助教授)

松井由佳(日本・ニュージーランド文化交流協会)

### 1.カンボジアにおける幼児教育制度

カンボジアの幼児教育は、大きく 3 つの形態に分けられる。第 1 に、教育省就学前教育局が管轄している、公立および私立のプリスクールである。対象年齢は 3~5 歳である。第 2 に、女性省が監督・管理し、地方自治体が設置している、コミュニティプリスクールである。特に農村地域の 3~5 歳が対象とされる。第 3 に、地方自治体が管轄する家庭内での親教育プログラム (Home-based Education) である。幼稚園設置が困難な僻地を中心に行っているプログラムである。幼稚園教員が母親グループを月 2 回訪問し、子ども(特に 5 歳児)の教育の仕方、絵本などについての研修を行っている。

この他、13 の省で、NGO やユニセフの支援により小学校入学後の準備プログラムが行われる。これは、小学校入学後の最初の 8 週間に、小学校への適応を目的として、幼稚園と類似したカリキュラムで教育を行うものである。効果が示されていることから、期間を 3 ヶ月間に延長することも予定されている(2004 年時点)。

### 2.カンボジアの幼児教育に関する基本統計

#### (1)就園者数

就園者数は、58,000 人(1999 年)から 95,000 人(2004 年)へと急増している(UNESCO,2007)。そのうち私立の幼稚園に就園している子どもの割合は、24%(2004 年)である(UNESCO,2007)。私立幼稚園の設立には教育省の許可申請が必要であり、審査にあたっては、教員の資格、生徒の募集方法などがチェックされる。しかし認可を受けている私立幼稚園はその約 30%に過ぎないとも言われ、許可なく運営している私立幼稚園も多く存在すると考えられる。また、上述の Home-based Education、小学校での準備プログラムなどは、内容としては幼児教育に類するものであるが、公的な就園者数としてカウン

トされていない。

## (2)就園率

表 1 に総就園率の推移を示した。この 15 年間で 4.0%(1990 年)から 10.6%(2004-2005 年)へと増加しているものの、1 割程度と非常に低い数値にとどまっている。年齢別の就園率では、3 歳児が 1.2%、4 歳児が 5.0%、5 歳児が 12.9%となっている(UNESCO,2007)。また、表 2 に小学校入学者のうち幼児教育を受けてから就学する子どもの割合を示した。就園率は、途上国の中でも最も低い水準にあると言えよう。

表 1 総就園率(3～5 歳：%)

	1990 年	1990-1991 年	1998-1999 年	1999-2000 年	2000 年	2001 年	2002-2003 年	2004-2005 年
男	4.2	5.6	5.1	5.4	6.3	7.2	5.8	-
女	3.8	5.1	5.3	5.7	6.8	7.7	7.2	-
全体	4.0	5.3	5.2	5.6	6.6	7.4	7.0	10.6
GPI	0.91	0.91	1.03	1.05	1.07	1.08	1.05	-

注：GPI (ジェンダー平等指標：女/男)  
-はデータなし

出所：Education for All Global Monitoring Report 2003/4,2005,2006,2007

表 2 小学校入学者のうち幼児教育を受けてから就学する子どもの割合(%)

1998/1999 年			2000 年			2002-2003 年			2004 年			2004-2005 年		
全体	男	女	全体	男	女	全体	男	女	全体	男	女	全体	男	女
8.0	7.9	8.2	8.4	8.1	8.8	11.9	10.7	13.2	12.0	11.0	13.0	13.2	-	-

注：-はデータなし

出所：Education for All Global Monitoring Report 2003/4,2005,2006,2007

Cambodia Early Childhood Care and Education(ECCE) programmes, Country Profile commissioned for the EFA Global Monitoring Report 2007, Strong foundations: early childhood care and education

## 3.幼児教育のカリキュラム

公立および私立のプリスクールは、週の平均日数は 5 日間(15 時間)であり、年の平均週数は 38 週である。子どもの年齢に関連したライフスキルや情緒的・社会的・道徳的・美的価値を育むことが目指されている。同時に、読み書き計算の初歩や、総合科学を、遊びの中で教えること、大筋肉・小筋肉の発達、社会的スキル、問題解決、芸術、劇、読み書きの初歩スキルを促す活動を行うことが目標とされる。

コミュニティプリスクールは、週の平均日数は5日間(10時間)であり、年の平均週数は24～36週である。特に幼児教育の刺激に乏しい、農村地域や都市周辺のすべての子どもを対象としており、カリキュラムは公立プリスクールに準じる。

Home-based Education は、0～6歳の親を対象として、主要な教育者としての親の役割を高め、親役割強化の方法を、家庭での初期学習に親が関わることを通して学ぶことを目指す。内容の中心は識字訓練や育児の仕方である。

#### 4. 教員と教員養成

##### (1) 教員数

幼児教育施設別の教員数は、2005年時点で、公立のプリスクールが3,027人、私立のプリスクールが448人、コミュニティプリスクールが920人である(UNESCO,2007)。Home-based Education は、これらの現職教員が兼任している。

年度別の幼児教育の教員数は、施設数の増加に伴い3,000人(1990)から4,395人(2004-2005年)へと増加している(表3)。教員のほとんど全員が女性である。また教員1人当たりの子どもの数は、2004年時点で30人であり、1990年の17人より増加している(UNESCO,2007)。

表3 年度別の幼児教育の教員数

	1990年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002- 2003年	2004年	2004- 2005年
教員総数(人)	3,000	2,200	2,000	3,300	3,200	3,500	3,000	4,395
女性教員(%)	82.1	99.0	99.0	98.1	99.0	99.0	99.0	99.0
養成を受けた教員(%)	-	-	-	-	93.8	94.0	94.0	99.0

注：-はデータなし

出所：Education for All Global Monitoring Report 2003/4,2005,2006,2007

##### (2) 教員養成

公立のプリスクールの教員は、教育省の教員養成校で2年間の訓練を受ける。コミュニティプリスクールの教員は、地方の就学前教育局実施の16日間の現職研修を受けている。表3から分かるように、ほぼ全員が養成を受けているが、その内容は様々である。

私立のプリスクールの教員の中には、教育省の養成校で訓練を受けている者もいるが、園が独自に養成プログラムを設定している場合も多い。そのため、各教員の受けている養

成内容は様々である。また幼稚園から大学まで併設しているある私立幼稚園では、系列の高校を卒業した生徒が大学に進学する際に、幼稚園の教員を経験すれば、大学の授業料優遇が受けられるという制度を設けており、全く訓練を受けておらず、かつ幼稚園教員という職業に興味のない者が教員を行っている場合もある。

Home-based Education を行う教員は、主に識字に関して、2年に1回、3日間の現職研修を受ける。

## 5. 幼児教育に関する費用負担と財政

ECD に対する政府融資（1997年）は約 US\$750,000、財政支援（2004-2005年）は US\$112,500 である。公的教育総支出の対 GNP 比および対政府総支出比、公的教育経常支出の対公的教育総支出比は表 4 の通りである。

表4 幼児教育に関する財政データ

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2004年
公的教育総支出の対GNP比	1.3	1.0	1.9	2.1	1.9	2.2
公的教育総支出の対政府総支出比	10.2	8.7	89.7	15.3	15.3	-
公的教育経常支出の対公的教育総支出比	63.8	-	89.7	95.3	95.3	-

注：-はデータなし

出所：Education for All Global Monitoring Report 2003/4, 2005, 2006, 2007

Cambodia Early Childhood Care and Education(ECCE) programmes, Country Profile commissioned for the EFA Global Monitoring Report 2007, Strong foundations: early childhood care and education

## 6. 国際協力の動向

2005年度に関するデータでは、UNICEFは、609のコミュニティプリスクールに通う子どもへの支援を行っている(UNESCO, 2007)。その内容は、インフラ、教員養成費用、教員の学習教材開発、教員への謝礼金の援助など多岐にわたる。

2004～2005年時点で、NGOからの支援は合計US\$27,192,947である(UNESCO, 2007)。支援内容は、2,000人の幼児教育に携わる教員や、カリキュラム、教材の質の向上中心などソフト面が中心である。

日本からの協力に関しては、NGO 幼い難民を考える会(CYR)が、プノンペン市郊外、カンダール州で、4つの保育所を運営し、保育者研修の実施、保育教材や識字教材の開発・普及、女性の職業訓練等を行っている。またNGOのシャンティ国際ボランティア会(SVA)が、国立の教員養成所の運営に関わっている。この養成所には、JICAのシニア海外ボランティアが派遣されている。日本からの協力の詳細については、次節の現地調査の報告の中で詳細を述べる。

## 7. カンボジアにおける幼児教育の現状(現地調査より)

筆者らが幼児教育の実態を把握することを目的として、2003年9月および2004年11月に行った現地調査の結果を以下に示す。内容は、現地の幼稚園および保育所の調査、保育者へのインタビュー、教育省担当官へのインタビュー等である。

### (1) カンボジア幼児教育に関する政策・実態に関する調査

カンボジア教育省就学前教育局長Mrs. Sieng Sorvathanaにインタビューを行い、カンボジ

ア幼児教育に関する政策・実態について聞き取り調査を行った。

#### 私立幼稚園について

教育省就学前教育局は、カンボジア国内の私立幼稚園を含むすべての幼稚園を管轄している。私立幼稚園の設立には教育省の許可申請が必要であり、審査にあたっては、教員の資格、生徒の募集方法などをチェックしている。しかし認可を受けている私立幼稚園はその30%に過ぎず、許可なく運営している私立幼稚園も多く存在する。また、私立幼稚園では保護者の要望に応えることが優先され、英語や読み書きの教育のみを行うなど、教育省のカリキュラムなどが遵守されていない場合も多い。

教育省としては、英語や読み書き中心の教育ではなく、さまざまな活動を取り入れた幼児教育が良いと考えており、視察に行った際に指導をしても、私立幼稚園側はその指導を受け入れない。私立校は資金的に豊かであるため力を持っており、局長レベルで指導をしても聞く耳を持ってもらえないのが現状である。

#### 幼稚園設置基準・カリキュラムについて

幼稚園設置基準は現在ユニセフの支援を受けて作成中であるが、まだ施行されていない。2005年から公立幼稚園に適用する予定である。カリキュラムは教員養成校校長を始めとする教員養成局で作成され、すでに施行されている。公立幼稚園はカンボジア全土に3,000校あることから、就学前教育局のスタッフ約30名ですべてをチェックすることは難しいが、今後努力していかなければならないと考えている。

現在カンボジアにはさまざまな幼稚園があり、公立幼稚園・コミュニティ幼稚園（コミュニティマネージメント）・私立幼稚園・家庭内での教育（Home-based Education）などがある。Home-based Educationは、幼稚園設置が困難な僻地を中心に行われており、幼稚園教員が母親グループを月2回訪問し、子ども（特に5歳児）の教育の仕方、絵本などについて話をしている。

#### 教員養成について

現在は高卒後1年間養成校で学ぶと資格が取れるが、来年から中卒者も養成校で2年学べば資格がとれるようになる。また、来年または再来年からBasic Educationという新しい制度ができ、高卒後2年間の養成を受ければ、幼稚園から中学校までの教員資格がとれるようになる。現在教員が足りないことが問題となっており、また、教員養成にもお金がかかるため、一本化して足りないところを補うことが計画されている。

教員になる人の資質としては、子どもが大好きであること、いろいろなものからいろいろなものを作る工夫ができること、歌や踊りなど子どもが好むことが好きな人、能力のある人（少なくとも中卒）などが望ましい。

女性省のプログラムであるコミュニティ幼稚園では、教員になるために資格は必要ないが、そのため教員の読み書きの能力が不十分で、教育省の通達が読めないこともある。

#### 現状・課題および今後の展望

課題はたくさんある。幼稚園就園児数が増えておらず、また教員も足りない。年間にこ

れまで 50 名しか養成することができなかつたため、増員したが現在でも 100 名にとどまっている。また、教材がなく、教員が足りないため就園率は 11%である。今年の統計では 5 歳児の就園率も 20%である。教育省は 9 年間の基礎教育の予算で精一杯であり、就学前教育まで手が回らないのが現状である。

## (2) 幼児教育の実態調査

プノンペン市内にある公立・私立幼稚園を訪問し、各園の園長を対象にインタビューを行い、設立・予算・園児構成・運営方針等について聞き取り調査を行った。また、園内の様子や保育・授業場面の視察を行い、設備や備品などを調べると共に、保育者と子どもとの関わりについて観察調査を行った。本調査は、治安、交通手段、時間的制約等により、プノンペン市内にある公立・私立の幼稚園および小学校に限って実施した。首都と地方では経済・産業等さまざまな面で大きな格差が存在するため、本調査の結果はカンボジア全土の状況を反映しているとはいえないことに留意が必要である。

### < 公立幼稚園 >

- 3 月 8 日幼稚園
- アヌワット・マチュム幼稚園（教員養成校附属幼稚園）
- ストウンミエンチャイ幼稚園

### < 私立幼稚園 >

- Newton Thilay 幼稚園
- New York 幼稚園
- サムパオーミス幼稚園

さらに、上記 6 園のうち、3 月 8 日幼稚園（公立）と Newton Thilay 幼稚園（私立）の保育者それぞれ 4 名および 2 名にインタビューを行い、保育者の保育に対する意識調査をおこなった。

現在プノンペンでは、街の復興が進み、社会・経済も整いつつある段階で、教育への関心が非常に高まっていることが伺われた。中でも、将来の高給職業への結びつきに対する期待から、英語教育に対する需要は非常に高く、英語教育を主に行う私立幼稚園が人気を集め、プノンペン市内に分校を複数有するほど成長していた。こうした私立幼稚園には、公務員、タクシードライバー、市場での商売によって、ある程度の現金収入のある中産階級以上の子どもが通っているようであった。

私立幼稚園 3 園に訪問したが、教育省の指導要領を基本とした保育を行っている園も 1 園あったが、他 2 園は教育省の認定を受けていながらも指導要領に全く従わず、英語の教育のみを行っていた。3 園に共通していたのは、公立幼稚園と比較して、園庭は非常に狭く、遊具は少ないこと、そして、その程度に差はあるものの、遊びよりも読み書きなどの勉強を優先していたことであった。

一方公立幼稚園については、支援の有無、園児の社会的背景等の条件により、施設等の環境には大きな格差が存在したが、保育内容については一定の質が確保されていたといえる。訪問した3園とも指導要領をほぼ遵守した保育を行い、保育計画、保育記録も教育省の指導どおり行っていた。公立保育園とはいえ、保育者の給与が政府から支払われる他は、補助金などは全くなき、園児から徴収する保育料（支援金）や NGO 等からの支援によって、おやつ支給、設備や備品の充実を行っているようであった。

調査を実施した各園調査結果概要を以下に示し、各園長に対するインタビュー結果のまとめを章末の資料に示す。

#### 公立幼稚園

##### a)3月8日幼稚園（公立）

1985年設立の公立幼稚園。公立ながら、3～5歳まで計12クラス、約400名（内女児：約170名）が通う大規模園である。保育者数も園長を含み28名と多く、その全員が有資格者である。各クラス2名の担任が配置され、また学年ごとに「主任」のような役割を持つ保育者が設定されており、組織的な幼稚園運営がなされていた。

保育は、基本的に教育省の指導要領を守りながらも、親の要望の多い英語を1日30分ずつ取り入れ、英語の歌（Twinkle, Twinkle, Little Starなど）を歌う、曜日や月の名を英語で言うなどの独自の活動も行っていた。

園舎は古く、保育室内は全体に薄暗かったが、全体に清潔に整えられていた。保育室には黒板、荷物置棚、水のみ場などが設置され、壁面には保育者手作りと思われるクメール文字や数字に関するさまざまな教材が貼られ、子どもの作品の掲示もみられた。玩具類としては、積み木やぬいぐるみ、ままごと用具などが棚にきれいに配置されていた。子どもの手の届く範囲に置かれてはいたが、どれも汚れ等はほとんどなく、子どもが自由に使えるようになっているかは不明であった。

園庭は比較的広く、すべり台、ブランコなどの遊具も設置され、塀にはペンキでディズニーを模したようなイラストが描かれるなど、環境整備も工夫されていた。しかし、遊具はすべてコンクリートの上に配置されており、子どもの安全性を十分考慮した設計にはなっていなかった。

当園では、カンボジアの習慣を教えること、カンボジア人としてのアイデンティティを育てることを重視しているが、親の多くは文字の読み書きの教育を期待してくるといい、そうした親への説得が園運営の上で最も大変であるということであった。登園時の保護者や子どもとのやり取り・保育の観察からも、保育者の保育に対する意識の高さが伺われ、当園では全体に質の高い保育が行われている印象を受けた。（保育者意識調査も参照）

##### b)アヌワット・マチュム幼稚園（国立・教員養成校附属）

1996年設立の国立教員養成校附属の幼稚園で、3～5歳まで計6クラス、約157名（内女児：約80名）が通っている。園児は主に公務員・NGO職員・自営業の家庭の子どもであるが、日本のNGOシャントイ国際ボランティア会（SVA）の支援（1人あたり1ヶ月4



万リエルの保育料補助)を受けて、ストリートチルドレンの子どもも 25 名在籍している。

設立の際から SVA の支援を受けていることもあり、遊具、建物、設備等は今回調査を行った 6 園中格段に充実していた。園庭、園舎は広く、トイレ、水道、シャワーが完備されており、図書室に加えて、各保育室に数 10 冊の図書が設置されていたことが印象的であった。しかし、2003 年度と同園調査時に壊れていた園庭遊具が、一年以上経過した今回の調査時にも修繕されないまま放置されているなど、“援助慣れ”の実態も伺われた。

また、日本からの支援が入っているためか、さまざまな面で日本の幼稚園の影響が強く感じられた。保育室の壁には、子どもの作品や写真の展示のほか、保育者が色画用紙を使って描いたと思われる大きな桜の木や虹が壁一面を使って見事に描かれ、また、子ども一人一人に用意されたロッカーやフックには、それぞれの子どもの名前のラベルが付けられていた。

訪問時はお昼寝の時間帯であったため、保護者とのかかわりや保育の様子はほとんど観察できなかったが、保育者へのインタビュー、保育計画や保育記録などから、保育者の意識は非常に高いことが伺われた。この非常に恵まれた環境の中で、教育省の指導要領を遵守した保育が丁寧に行われているようであった。

#### c) ストウンミエンチャイ幼稚園

1984 年設立の公立幼稚園。小学校の教師をしていた現園長が、村に幼稚園を作ってほしいという要請を受けて設立したという。1984 年当時は、共産主義の時代で各地に多くの幼稚園が設立されたが、現在ではほとんど残っていないということであった。

貧困地域に立地しているため、保育料は無料で、おやつは NGO (フランス) から支援を受けているという。また、遊具や備品については JICA シニアボランティアから援助があったといい、園庭の遊具は比較的充実し、保育室内の備品も黒板、園児用のプラスチックの椅子など最低限の備品は整っていた。訪問時、園庭の遊具では園児以外の子ども(ほとんどが小学生と思われた)が 10 名前後遊んでいた。

訪問時の園児数は 38 名で、園長 1 名で保育を行っていた。園児は、園長が村長と共に村の家庭を訪問し、幼稚園に来れば小学校に行ってから勉強が良くできる、などと説得して集めているという。環境は決して恵まれているとはいえないが、20 年もの保育経験を持つ園長が 40 名近い園児の注意をうまくひきつけ、しっかりとした保育が行われていた。貧困地域における幼児教育の重要性を十分理解した園長の意欲と温かさが伝わってくるようであった。

#### 私立幼稚園

##### a) Newton Thilay 幼稚園

1991 年設立の私立幼稚園であり、幼稚園から大学まで擁する大きな学校組織の一部である。園児数は計約 560 名(内女子:約 300 名。6 歳以上:約 250 名)であり、英語の能力別に午前 11 クラス、午後 7 クラス分けられて保育が行われている。英語教育が受けられることで人気を博し、プノンペン市内に複数の分校があり、訪問した幼稚園は分校の 1 つ

であった。親の職業は、自営業、タクシードライバー、公務員などで、1ヶ月9ドルの月謝の滞納はほとんどないといい、中産階級以上の子どもが通っているようであった。

これからのカンボジアでは英語力が求められるとの考えから、保育内容は英語に特化されており、政府の指導要領には全く従わず、独自の教科書を用いて、教員各自がレッスンプランを立てて授業が行われている。

園舎は内装・外装共にスクールカラーの青を基調とした3階建てのビルである。廊下や保育室の壁面にはアルファベットや英単語のきれいなポスターで装飾されており、全体に明るい雰囲気を整えられていた。しかし、保育室内には机が所狭しと並べられ、園庭は園児数に比して非常に狭く、遊具は設置されておらず、子どもが自由に動き回ったり、遊んだりできる空間はないに等しかった。

保育内容は英語の学習一色で、園児はみなノートを広げて机につき、アルファベットや単語を声を揃えて唱えたり、白板に書かれた文章をノートに写したりしていた。幼稚園というよりは「英語塾」に近い印象であった。

#### b) New York 幼稚園・小学校

1998年設立の学校組織で、現在17の分校があり、幼稚園、小学校、成人クラスの3種類のコースを設置しているという。今後は中学校および専門学校を設立予定という。幼稚園としては、英語幼稚園とクメール語幼稚園の2種類があり、訪問した分校は英語幼稚園であった。

クラスは年齢・英語力に応じて編成され、計15クラス、約400名の園児が在籍しており、カリキュラムについては、小学校は指導要領を守っているが、幼稚園は指導要領には従わず、上記Newton Thilay幼稚園と同様に、英語教育に特化した保育が行われていた。

保育室には白板とちいさなテーブル付きの椅子があるだけで、玩具や絵本などは全く設置されておらず、壁面装飾等も皆無であった。

#### c) サムパオーミス(Sompov Meas)幼稚園

1989年設立の私立幼稚園。3～5歳児各1クラス、約90名(内女子:約40名)が在籍している。創立者は元公立高等学校教師の現学園長で、公立幼稚園しかなかった時代に、私立幼稚園が必要と考え設立したという。その後、1993年に小学校・中学校・高等学校が設立され、現在は3階建ての校舎内に幼稚園から高等学校までの教室があり、1階部分3室が幼稚園の保育室となっていた。

敷地のほとんどを校舎が占めているため園庭は非常に狭く、遊具はゆりかご型のブランコが隅に設置されていたが紐で縛られており、子どもが自由に遊べる状態にはなかった。

上記私立2園と大きく異なったのは、英語や文字の読み書きのプログラムも取り入れてはいるものの、教育省の指導要領を基本とした保育を行っている点である。保育者は全員高卒後教員養成校で学んだ有資格者で、園の保育方針としては文字を覚えること以外にも大切したいということであった。訪問時がお昼の休憩時間に差し掛かっていたため、保育の内容は観察できなかったが、保育計画・保護者との連絡ノートは、公立園と類似してお

り、指導要領に基本的に従っていることが確認された。

公立幼稚園と比較したアピール点としては、カリキュラムの自由度が高いため、公立園よりも遊びの時間を減らし、文字の読み書きの習得への要望にも対応できることがあげられた。保育室内には積み木や人形などの玩具類がほとんどみあたらず、黒板に向かって机が並べられている様子からも、公立園よりは勉強を主体とした保育が行われていることが伺われた。また、小学校の各教室を巡回して観察した授業の様子からは、日本の私立「進学校」と似た印象を受けた。

#### 保育者の意識調査

3月8日幼稚園（公立）保育者4名およびNewton Thilay幼稚園（私立）2名に対し、保育に対する意識に関するインタビュー調査を行った。その結果、公立幼稚園の保育者は「子どもと一緒に子どものように遊んでいる」など、幼児との関わりを楽しみ、また、子どもが言うことを聞かないときには「とても時間がかかるけど、少しずつ話をしていく」など、子どもの気持ちに寄り添った保育を心がけていることが分かった。また、園外の研修会にも多く参加しており、保護者とは「家庭ではこういうふうにしてください。子どもが良くなっていますよ。」などのやり取りをするなど、向上心が高く、保育のプロとしての意識も高いことが示された。

一方、私立幼稚園の保育者は、志望動機として「この学校の大学に進学したい。先生をすれば授業料を優遇されるから」「なろうと思ったわけではないが縁があると思う」と語り、2名とも子どもや教育への関心を挙げていなかった。また、子どもとの関わりについては「子どもと一緒にだから楽しい」としているが、子どもの住まいや親の職業は「知らないが、申込書を見れば分かる」と答えており、子どもの家庭についての情報を積極的に入手しようとはしていないようであった。こうした背景情報は、子どもの総合的な理解には重要であると考えられる。こうした点からも、公立幼稚園の保育者に見られたような、保育者として子どもの育ちに深く関わって行こうとする意識が低いことが伺われた。

インタビュー結果の詳細は資料3に示す。複数の保育者が同内容の回答をした場合は1つにまとめて記した。

### (3) 幼児教育と小学校との関連性に関する調査

カンボジア教育省の就学前教育局局長Mrs. Sieng Sorvathana、統計局局长Mrs. Kuipala、教育省次官H.E. Mr. Hak Senglyの3名に、EFA達成に向けた取り組みとその中での幼児教育の位置づけについて、取り調査を行った。さらに、小学校教育の現状を把握するため、公立小学校1校（ワットサンサムコサル公立小学校）を訪問し、校長および教員に対するインタビューを行った。

#### 教育省担当官へのインタビュー

幼稚園に通っていない子どもは小学校入学後適応が遅れ、最初の1ヶ月間くらいは泣いていたりする。その結果、勉強も遅れることとなる。子どもが学校を好きだと思えることが

一番大切だが、最初に学校に行ったときに怖いという感情を持ってしまうと、学校で泣いていたり、おとなしすぎたり、人生にも影響することとなる。また、幼稚園に行っていない子どもは集団生活での習慣が身についておらず、自分の習慣（お昼寝習慣など）が抜けにくいという問題もある。

就学前期・学童期の子どもに大切なことは、健康および食べ物である。カンボジアの子どもたちには食べ物の問題は大きい。また、予防接種や勉強について知ってもらうことも大切である。小学校の進級テストは、子どもにとっては大変なことだと思う。本当は自動的に学年をあがるのがよいが、まだカンボジアでは教師の子どもを把握する能力に問題があるため、試験などの形で子どもを把握させる必要がある。木曜日の午後などに、勉強ができない子を対象とした補習の実施も計画されているがまだ充分ではない。

現在、小学校の最初の8週間を準備期間と位置づけ、歌を歌うなど幼稚園のプログラムを小学校のカリキュラムと織り交ぜて行っている。当初は小学校教員からカリキュラムが終わらないなどの懸念の声があがったが、子ども達が楽しんでおり、時間数が減っても逆に覚えが良くなっていることなどから、この試みは小学校教員にも認められ始めている。

#### 公立小学校の調査

##### a) ワットサンサムコサル小学校（公立）

ワットサンサムコサル小学校は、1964年に創立され、内戦時の閉鎖を経て1979年に再開された公立小学校である。1年生から6年生まで計56クラス、2616名が通っているが、教室数不足のため3部制で授業が行われている。現在学費は無料であり、教科書は教育省から無償で配布されているという。

調査実施前、カンボジアでは1年生から2年生への進級率が50%であり、その背景に進級テストの存在があるという情報を得ていた。しかし、実際には進級テストは5年前に廃止されており、現在は中間・期末テストの結果で進級の可否が決められているといい、以前に比べてドロップアウト率は改善され、現在の進級率は約94%で、大多数の子どもが6年生まで進級できるということであった。小学校の概要についての校長へのインタビュー結果は資料4に、教員へのインタビュー結果は資料5示す。

訪問時、敷地内に新しい校舎を建築中であり、完成すれば3部制は解消されそうであった。また、7歳以上で学校に通っていない子どもを校長が調べて通学するよう呼びかけ、そうした児童を対象に、1年生特別クラスを設置し、1年間で2年間分の学習をして3年生に進級できるようにしているという。また、教育省での調査で明らかとなった1年生の初めに行う幼稚園のカリキュラムを取り入れた特別プログラムについては、時間の都合上、規定の8週間は行っていないが、4週間は実施しているといい、就学率改善に向けた試みが実際に動いていることが確認できた。

また、ワットサンサムコサル小学校では小学校の教室も不足している状況であるため、付設幼稚園を設置していないが、政府からは各校に幼稚園を付設するよう通達が出ているといい、現状では幼稚園まで政府の予算が十分回っていないものの、政府が就学前教育を

重要視していることが分かった。近くに幼稚園がないため、幼稚園に通った経験のある児童は年に 15～20 名程度というが、実際、幼稚園に通っていた子どもは先生の指示をよく聞き、教えやすいという評価であった。

#### (4)日本の幼児教育分野における協力活動の実態調査

JICA カンボジア事務所および NGO 幼い難民を考える会の関係者に対し、日本のカンボジアにおける国際協力の実際について聞き取り調査を行った。

JICA カンボジア事務所

##### a)対カンボジア協力における教育の位置づけ

重点分野が 8 分野あり、そのうちのひとつが教育である。その他の重点分野は、保健衛生・経済開発・地雷除去・ガバナンス（行政）など。カンボジアは長い内戦の間、約 20 年間ほとんど教育機能を失っていた。その時代、ほとんどの子どもたちが家の中で過ごし、その人たちが現在 30 代後半から 50 代となっている。ポルポトの時代には優秀の人たち（各分野の指導者たち。政治家・公務員・芸術家など）がたくさん殺された。そうした荒廃した中から立て直してきた。

このようにカンボジアは「人材」という面で稀有なダメージを受けた国であり、教育がこの国ではとても重要である。しかし重点分野でありながらも、日本側のリソースの問題から、それほど多くのことを行っているわけではなく、できるところからやっているのが現状である。その中で、理数科教育の訓練のプロジェクトが大きなものとして挙げられる。これは、理数科の教員養成校に日本から専門家を置き、養成校の先生を養成するプロジェクトであり、このプロジェクトの終了後は、教科書に関する新たなプロジェクトを始める予定である。

また、教育省にアドバイザーを置くことや、理数科・幼稚園・保育園・孤児院への協力隊員やシニアボランティアの派遣も行ってきているが、これらはプログラムというよりは「点」にすぎない。

資金協力では、学校建設も大都市の敷地の狭い学校について、1 階建ての校舎を 3 階建てにするなどの建て直しを行っている。プノンペンが人口が増えてきており、学校の生徒数も多くなってきている。3 部制、1 クラス 80 名という学校も少なくなく、教育の時間数も足りない。その解消のため、3 階建ての大きな校舎をつくって、45 名くらいの 2 部制にすることを目標としている。現状としては、教員数は足りているが、学校が足りていないのである。

問題点が多い。まずは、教員の基礎能力の低さが挙げられる。現在学校で先生をしている年代の人が基礎教育を十分に受けられていないため、先生のほうが生徒よりテストの点数が低いこともある。

高校教諭になるためには大学卒業後、養成学校に入る必要があり、その養成校は 1 校しかない。教員は教科書に依存する傾向があり、教科書の内容を必死に教えるという文化が根

付いているため、それをこれから変えていくのは難しい。また、教科書の内容自体にも問題があるといえる。

内戦前の 1960 年代までは東南アジアの中でプノンペン大学も一流の大学だった。その時点では都市計画・インフラ・芸術などさまざまな側面においてカンボジアはとてもレベルの高い国だった。しかし、現在では、ある程度勉強しなければ大学には入れないが、大学に入れるレベルが低く、大学教員のレベルも低い。大学を出たからといって優秀でエリートということはない。

#### b) 就学前教育に関する取り組み

現在は JOCV と SV の配置のみである。就学前教育は、まだ JICA では重要なサブセクターとは考えられていない。小学校ですらお金を払えないから子どもも行かせられない家庭に幼稚園に行かせなさいといってもむなし。しかしそれも教育省が補助金を出せば可能となる。つまり、国の発展には順番があり、まずは経済復興が必要で、そこから少しずつ改善していくしかない。荒廃をした国で教育を立て直していくプロセスとして捉え、どのあたりで幼児教育を入れていくか、という視点を持つことが重要なのではないだろうか。

#### 幼い難民を考える会カンボジア事務所 (CYK)

CYR は 1980 年に難民キャンプでの活動をきっかけとして設立され、以来一貫して子どもたちの心と体の発達を支えることを目的としてカンボジアでの活動を続けている。現在は、保育園運営、現地 NGO との協力、幼稚園教員の再トレーニング、教材の作成と普及などの活動を行っている。そうした活動の中では、現地の人々が自立して運営していけるようなシステムを作ること、そして、自国の文化や慣習に合ったものを自分たちの手で作り上げていけるようにすることを大切にしている。

最近カンボジアでは、就学前教育局が母親グループ・コミュニティで子どもを遊ばせるスペース作りを始めた。また、スラムや僻地の優先政策が取られ始めている。教育省も幼児教育の大切さを保護者に知ってもらうため活動中だが、予算がまったくなく、予算がつけば動き出すという状態である。

#### (5) 調査まとめ

カンボジアの就学前教育の就学率は 10% 前後であり、公立幼稚園は非常に少ない。内戦によってすべてを奪われたカンボジアでは教師不足が顕著であり、乳幼児死亡率も非常に高く、保健と切り離すことができない。

国の財政は厳しく、小学校も足りていないため、幼児教育に割かれる予算は非常に少なく、幼稚園の新規設置は難しいのが現状である。そのため、就学前教育局では現在、home based education (HBE) という母親学級のようなプログラムを、ラオスとの国境周辺やクメールルージュの元占拠地を中心に進めている。HBE では、幼稚園の先生が母親グループに月 2 回訪問し、特に 5 歳の子どもの持つ母親に対して教育の仕方や絵本の読み方など

について教育している。

その一方で、プノンペンでは英語塾のような幼稚園が乱立しており、比較的裕福な中産階級以上の子どもが多く在籍していた。そこでは部屋いっぱい並べられた机に向かって、アルファベットを復唱するだけのような授業が行われ、対人的なかわりや、子ども自身の興味を活かそうとする活動はみられなかった。教育省の就学前教育局では、そのような具体的な状況を把握できておらず、また、金銭的に優位に立つ私立学校は就学前教育局の指導には従わないといい、国として幼児教育制度の整備が不十分であることは明らかであった。

また、本調査結果から、教員の給料の違いは、必ずしも意欲やスキルと関連しているわけではないことが示唆された。公立よりも私立幼稚園の方が教員の給料は高いが、教師との面接調査を通して、例えば英語塾のようであった私立園の先生は、1人1人子どもたちの家庭などの背景をよく把握していなかったのに対して、公立の教師はそのような背景を含めた1人1人の個性に応じた働きかけを意識している、また子どもが帰った後に遅くまで残って次の日の準備をしている、この仕事を誇りに思っているといった回答があった。このように、一般的に教員の社会的地位や給料が低いECDにおいては、教育の質には数字に見えてこないところがとても大きく、教育プロセスを見ていく必要があると思われる。また、教育省におけるECDの位置づけは、2015年のEFA達成のための有効な手立てということである。特にカンボジアでは、子どもが6歳になって小学校に入っても、教師が怖いとか、集団生活になじめないなどの理由での退学というのが深刻な問題となっており、そのためにECDの重要性が認識され、就学前教育局が設置されている。しかし予算措置はとても難しく、就学前教育局ではユニセフの支援を受けて小学校に入学してからの最初の8週間は、ECDのような遊びを通した学習をカリキュラムの中に取り入れる試みを行っている。実際に小学校校長にそのことを尋ねてみると、小学校不足で2部制3部制で教育を行っているため、とても8週間も割けず、2~3週間しか行っていないようであったが、やはり一定の効果があるとの評価であった。当初は現場でも校長も教師たちも懐疑的であったのが、今はその効果が認められているようであった。このような実践は、就学前教育としてカウントはされないため数字には表れてこない。ECDにはこのような部分がとても多いことが、本調査の中で改めて明らかとなった。

#### 【引用文献】

UNESCO(2003/4) *Education for All Global Monitoring Report 2003/4*

UNESCO(2005) *Education for All Global Monitoring Report 2005*

UNESCO(2006) *Education for All Global Monitoring Report 2006*

UNESCO(2007) *Education for All Global Monitoring Report 2007*

UNESCO(2007) Cambodia Early Childhood Care and Education(ECCE) programmes, *Country Profile commissioned for the EFA Global Monitoring Report 2007, Strong*

*foundations: early childhood care and education*



資料1 公立幼稚園の調査結果

	3月8日	養成学校付属	ストウンミエンチャイ
1 年間予算	約7000ドル	-	なし
2 補助金の有無	なし	なし	なし
3 保育料	*「支援金」として徴収 親の収入により金額は違う 毎月支払えなくても幼稚園をやめさせることはない。	・全日：月約15ドル ・午前のみ：月約7ドル ・給食/昼寝無：年約20ドル ・ストリートプレイ：無料	無料 おやつ：NGOより支援 備品等：JICAシニアボランティアより
4 設立年	1985年	1996年	1984年
5 職員数	常勤保育者 28名(園長含) 掃除など 2名	常勤保育者 7名(園長含) 図書館司書 4名 コック 3名 掃除 2名	常勤保育者 2名(園長含) *訪問時、保育者1名が産休中のため園長1人で保育をしていた。
6 有資格者割合	100%	約80%	50%(園長のみ保有)
7 保育者学歴	中卒 70% 高卒 30%	-	園長は中卒
8 経験年数	5~20年	-	20年
9 採用基準	プノンペン支局の試験を通った人から、経験・能力・人柄を考慮して採用する	-	-
10 保育者に必要な資質	子どもの教えることに興味・関心がある 保育計画のアイデアが多い 子どもの発達に関する知識や理解がある	子どもに教えることに興味・関心がある 保育計画のアイデアが多い 人とのコミュニケーション能力が高い	子どもに教えることに興味・関心がある 子どもと一緒に活動することが好きである 人とのコミュニケーション能力が高い
11 園児数(登録)	401名(内女児：169名)	約157名(内女児：約80名)	現在約38名(内女児17名) *昨年は73名(30名が小学校入学)
12 クラス数	12クラス (年少2・年中6・年長4)	6クラス (年少2・年中2・年長2)	1クラス
13 親の職業	公務員80%、自営業10%、労働者10%	公務員・NGO職員・市場の商売など	貧困層
14 保育日	月・火・水・木・金	月・火・水・木・金	月・火・水・金・土
15 保育時間	7:00~10:30、14:00~16:30 午前の子どものみが60%	6:30~10:30、14:00~17:00 *午前のみで帰る場合もある *お昼も幼稚園で昼寝をする子どももいる。 *食事3回(8:30/11:00/14:00)	7:30~10:00 *おやつ1回(NGOより支給)
16 施設	1階建て 保育室12、職員室、トイレ1	きれいな 保育室3、職員室、図書室、トイレ10、シャワー、水道	2階建ての建物をユネスコ成人プログラムと共有(4部屋中2部屋を幼稚園で使用) 保育室1、職員室、トイレ2
17 園庭・遊具	広い。 ブランコ5、滑り台2	非常に広い 鉄棒、ブランコ、タイヤ、滑り台、シーソー、のぼり棒、砂場(シェード付)、アスレチック	園児数に比して非常に広い ブランコ1、滑り台1、タイヤ、シーソー

18	保育室・備品	やや狭い 黒板、いす 荷物置棚、飲料用水バケツ、タオル、ぬいぐるみ、ままごと用具、積み木、本	非常に広い 白板、机、いす	やや狭い 黒板、いす
19	指導要領の遵守度	ほぼ従っている。 英語(1日30分)を実施。	従っている。 独自の活動はなし。	従っている。 独自の活動はなし。
20	保育指導計画	年案・月案・週案・日案を作成している	年案・月案・週案・日案を作成している	年案・月案・週案・日案を作成している
21	保育記録	有り	有り	有り
22	園内研修	有り	必要があれば行う	-
23	職員会議	有り 月1回	有り 週1回(土曜日)	-
24	保護者との情報交換	・毎月連絡帳を交換 ・送迎時に話す	-	・送迎時に話す
25	保護者が参加する行事	運動会、学校の祭り、入学式	こどもの日、運動会、正月の前など	特別にはない。 去年は家庭での子どもとの関わりに関するワークショップを行った。
26	幼稚園就園理由	子どもに礼儀やマナーを身につけさせるため。	場所・遊ぶところがたくさんあり環境がとてもよい。 物が豊富。	村長と村の家庭を訪問し、来させてほしいと頼んで歩いている。小学校に行って勉強ができると親に話している。幼稚園に行っていた子は小学校でよくできると小学校の先生に言われた。
27	保育・教育で重要なこと	集団生活のルールを学ぶ 保護者からの自立を促す 小学校入学準備	集団生活のルールを学ぶ 小学校入学準備 集団で遊ぶ、学ぶ経験	読み書きの習得 集団生活のルールを学ぶ 小学校入学準備
28	今後の課題	・コミュニティからの協力 ・親、村長、地区長に、子どもが幼稚園に入るようにしてもらおう ・校舎の修繕 ・教育省とかけあって、食堂やお昼寝の場所を作る ・親に、良質の保育をしていると思ってもらえるようにする	担任1人では子どもの十分なケアができないため、1クラスに保育者を2人配置したい。	・いまより発展させたい ・少しずつ環境整備をする(看板・国旗のポール・修復) ・きれいにして、もっと子どもたちに来てもらいたい。

\* 「-」の項目については、質問もれ等のため回答が得られていない。

資料2 私立幼稚園の調査結果

	Newton Thilay	New York	Sompov Meas
1 年間予算	本校ならわかるが、予算のことはわからない。	7万ドル(1つの支校で)	年間約12000ドル
2 補助金の有無	会計部が管轄しているため、一切分からない。	ない	ない。ただし保育者の養成は政府負担。
3 保育料	月5-18ドル *幼稚園は月9ドル(初級) *教科書によって異なる	月平均6ドル *教科書によって異なる *奨学金制度有	月5ドル *3ヶ月前納で1ヶ月4ドル *低所得家庭は割引有
4 設立年	1991年	1996年	1984年
5 職員数	常勤保育者 11名 セキュリティ 2名 掃除 2名	計 53名	常勤保育者 4名 調理スタッフ 1名
6 有資格者割合	不明	100%	100%
7 保育者学歴	高卒以上 養成校出た人が望ましい	高卒または 中卒 + 小学校養成校卒業	高卒 採用後、養成校に通う
8 保育経験年数	1年半以上 保育者の年齢：20～25歳	-	保育者の年齢：22・28・30
9 採用基準	高卒以上。 養成校で勉強した人、私立や公立で教えた人など。	-	高卒以上 生活・行動・態度・やさしい・きれい・子どもが好き
10 保育者に必要な資質	子どもの発達に関する知識や理解がある 子どもに教えることに興味・関心がある 子どもと一緒に活動することが好き	子どもに教えることに興味・関心がある 人とのコミュニケーション能力が高い さまざまな状況に応じて、対応できる柔軟性がある	保育計画のアイデアが多い 子どもの発達に関する知識や理解がある 人とのコミュニケーション能力が高い
11 園児数(登録)	520名。土曜日は480名。 6歳以上が250名いる。	約400名	約80名
12 クラス数	午前11クラス 午後7クラス	15クラス	3クラス (年少1・年中1・年長1)
13 親の職業	自営業、タクシードライバー、公務員 など	-	公務員・商売をしているなど
14 保育日	月・火・水・木・金・土	月・火・水・木・金・土	月・火・水・木・金・土 *土曜日は午前のみ
15 保育時間	7:00～11:10, 13:00～16:30	7:30～10:30, 13:30～16:30	7:30～11:00, 14:00～16:30 *午前のみで帰る子もいる
16 施設	3階建てビル 系列の専門学校と隣接	1-2階建ての複数の園舎 小学校と同じ敷地内にある	3階建てビル 小・中・高校と同じ建物の1階3室が幼稚園
17 園庭・遊具	非常に狭い 遊具なし	狭い ブランコ2、滑り台1	非常に狭い ブランコ2
18 保育室・備品	非常に狭い 白板、机、いす	狭い 白板・いす(テーブル付)	広い 黒板、机、いす

19	指導要領の遵守度	従っていない。 時間割は決めていない。教科書はあるので、自分でレッスンプランを作っている。	幼稚園は従っていない。 小学校はカリキュラムを守っている。	一応基本としている。 オリジナルな活動もある (英語・文字の読み書き)
20	保育指導計画	独自のもの	-	有り
21	保育記録	有り	-	有り
22	園内研修	必要があれば行う	有り	-
23	職員会議の有無	有り 週1回	-	有り 毎週土曜日午後 (幼・小合同職員会議) + (幼単独の技術会議)
24	保護者との情報交換	なし	今年から保護者会を行う	-
25	保護者が参加する行事	なし	-	-
26	幼稚園就園理由	本校では能力や知識がつくと親を安心させている。 教員が知識を持っていること、学校がきちんとしていること、学校でおぼえたことを家で話したりするから。	-	幼稚園に行っておくと、小学校に入りやすいから。 小学校に入ってからすぐ勉強ができるようになり、性格もよくなる。 幼稚園の子どもは頭がいい。
27	保育・教育で重要なこと	集団で遊ぶ、学ぶ経験 小学校入学準備 読み書きの習得	集団生活のルールを学ぶ 小学校入学準備 集団で遊ぶ、学ぶ経験	小学校入学準備 集団で遊ぶ、学ぶ経験 読み書きの習得
28	今後の課題	教員の質を良くする。 教員の質が一番大事。 学校の年間・月間計画を、きちんとつくる。	国際的に行っていきたい。 中学校・専門学校を作る予定。	子どもの教育をもっとうまくできるようにしたい。 この学校でもっと社会にことができるようにしたい。

\* 「-」の項目については、質問もれ等のため回答が得られていない。

資料3 保育者へのインタビュー結果

	3月8日幼稚園(公立)	Newton Thilay 幼稚園(私立)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育経験4年目 女性</li> <li>• 保育経験5年目 23歳 女性</li> <li>• 保育経験12年目 31歳 女性</li> <li>• 保育経験13年目 32歳 女性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育経験4年目 28歳 女性</li> <li>• 保育経験2年目 21歳 女性</li> </ul>
学歴	高校+養成校(国立または市立)	高校卒業+小学校の養成校(中途退学) Newton Thilay 校+専門学校
資格の有無	ある	なし
保育者になったきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 観光業で働きたいと思っていたが、子どもが好きになり、子どもを教えたいと思ったから</li> <li>◆ 子どもが親の言うことを聞けるようにしたいと思ったから</li> <li>◆ 子どもが好きだから</li> <li>◆ いい子どもを育てたいから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ なろうと思ったわけではないが縁があると思う</li> <li>◆ この学校の大学に進学したい。先生をすれば授業料を優遇されるから</li> </ul>
小さい子どもたちに教えることについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 最初はちょっと大変だったけど、だんだん楽しくなってきた、お休みの日にはさびしいくらい。</li> <li>◆ 楽しい。自分も子どもと一緒に遊んでいる。</li> <li>◆ 楽しい。子どもは自分のことを親のように思っている感じ。先生と言うよりはママ、という感じ。</li> <li>◆ 大変さと楽しさは、どちらも同じくらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもと一緒に遊べるから楽しい</li> <li>◆ 楽しいこともあるし、苦しいこともある。子どもが話しても聞かないから、怒っている。</li> </ul>
保育・教育で重要なこと	集団生活のルールを学ぶ 3 集団で遊ぶ、学ぶことを経験する 3 保護者からの自立を促す 2 小学校入学準備 2 読み書きの習得 1 栄養をとる 1	集団生活のルールを学ぶ 2 集団で遊ぶ、学ぶことを経験する 2 栄養をとる 2
子どもに身につけさせたいこと	簡単な読み書きができること 3 きまりを守れること 2 友達と仲良くすること 2 丈夫な体をつくること 2 教師の指示に従うこと 1 歌を歌ったり、踊ったりすること 1 のびのびと遊ぶこと 1	きまりを守れること 2 友達と仲良くすること 2 簡単な読み書きができること 1 丈夫な体をつくること 1
教えるのが得意なこと	歌を歌ったり、踊ったりすること 3 簡単な読み書きができること 3 きまりを守れること 2 のびのびと遊ぶこと 2 教師の指示に従うこと 1 友達と仲良くすること 1	きまりを守れること 2 丈夫な体をつくること 2 友達と仲良くすること 1 歌を歌ったり、踊ったりすること 1 簡単な読み書きができること 1
教えるのが苦手なこと	きまりを守れること 2 工作や絵を描くこと 2 教師の指示に従うこと 1 簡単な計算ができること 1	工作や絵を描くこと 2 歌を歌ったり、踊ったりすること 1

保育の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ とても小さいので、幼稚園にいることを怖がって、泣いて親のところに行きたいという。</li> <li>◆ 男の子が言うことを聞かない。いろいろ言わないといけないので、のどがかれてしまう。</li> <li>◆ 病気（障害）を持っている子どもが言うことを聞かないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ いくら教えても理解できない子どもがいること。</li> <li>◆ 1つの文字がなかなか覚えられない子どもがいる。</li> </ul>
対処法	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ やさしくして、無理矢理自分のところに来させるのではなく、まずは子どもに信頼してもらうようにする。お母さんがいなくても大丈夫なようにしなければならない。</li> <li>◆ 友達がいなくてさびしいじゃない、みんなと一緒にやったほうが楽しいじゃない、と説得する。</li> <li>◆ 手を口を持って行かせ、話せないようにさせる。</li> <li>◆ 自分の経験と能力を踏まえ、子どもに聞いてもらったり楽しくしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 早く覚える人と早く覚えられない人に分け、早く覚えられない人は早く覚えるようにしている。</li> <li>◆ 特別に、何回も読ませたり聞かせたり書かせたりしている。</li> </ul>
子どもが言うことを聞かないときの対処法	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 音楽・楽器などいろいろなものを使う。</li> <li>◆ とても時間がかかるけど、少しずつ話をしていく。</li> <li>◆ 絵本を持ってきて、鬼・ライオン・トラなどの怖い絵を見せる。</li> <li>◆ やさしくしたり、絵本を見せたりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 一生懸命聞いてもらえるようにする。</li> <li>◆ 話してあげる。怖くすることもある。</li> </ul>
クラスの子どもの名前	全員知っている(3名) 入学後まだ1ヶ月なので、まだ半分くらいしか分からない(1名)	全員知っている
園児の住居	知っている。(3名) 連絡帳を見ればわかる。(1名)	知らないが、申込書を見れば分かる
親の職業	知っている。	知らないが、申込書を見れば分かる
園外研修への参加経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ある(3名:国立養成校、プノンペン市などの研修)</li> <li>◆ なし(1名:午後大学に通っているため行けない)</li> </ul>	◆ なし(学校内の研修のみ)
参加延回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ たくさん。覚えていないくらい</li> <li>◆ 6~7回</li> </ul>	-
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 保育の仕方/教育手法</li> <li>◆ ものの作り方</li> <li>◆ 1~6歳までの子どもの理解</li> </ul>	-
今後受けてみたい研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 教育の仕方</li> <li>◆ 教える経験は長いが、勉強経験は時代の影響もあって少ないので、新しい技術をたくさん勉強したい。</li> </ul>	◆ 教え方

指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 指導要領のスケジュールをみて、指導方法、目標などを計画している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 1週間ごとに作成している。日案はノートに書く</li> <li>◆ 学校のスケジュールを参考にして自分で作っている。</li> </ul>
全日準備	スケジュールを見て、日案を作成する。	している
帰宅時間	6時半～16時半または5時半まで (お昼寝も幼稚園でとる)	11時・17時
保護者とのやりとり	送迎時	入学時 子どもの送り迎え時は時々話をする が、毎日ではない。
保護者とのやり取りの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 家庭ではこういうふうにしてください。子どもが良くなっていますよ。など</li> <li>◆ 感謝を言いにくる。お世話になります。子どもが良くなってきている。教えてもらってありがとう。など</li> <li>◆ 子どもがどんな生活をしているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもが勉強ができない場合には、家で何をしているのかなど</li> </ul>
園児に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 将来は立場が強い人になって、独立して、いろいろな仕事ができる人になってほしい。</li> <li>◆ 社会で尊敬される人間になってほしい。</li> <li>◆ 悪い人になってほしくない。将来汚職をしてほしくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 社会的な地位の高い人間になってほしい</li> <li>◆ いい社会人になってほしい。大人になっても麻薬などに手を出さないようにさせたい。</li> </ul>
親はなぜこの幼稚園に来させていると思うか	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 能力と知識が向上する。</li> <li>◆ 幼稚園で他の子どもと関わりを持つことで、怖がらなくなる。</li> <li>◆ 家では得られない知識が、幼稚園では得られるから。</li> <li>◆ 強くなるため。</li> <li>◆ 知識を準備して小学校に入りやすくするため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもがすぐ知識を得られる</li> <li>◆ 場所が広い</li> <li>◆ 安全</li> <li>◆ 教育省の案内を守る</li> <li>◆ 両親が忙しくて小さい子どもを預けたいため</li> <li>◆ この学校が信頼でき、知識を得られると思っているため</li> </ul>

資料4 ワットサンサムコサル小学校(公立)校長インタビュー結果

設立年	1964年設立 内戦後1979年再設立
公的な補助金	2001年から政府からの補助あり。それまでは親や村の助成を受けていた。
学費	無料。ただし、校舎を建てるなど行うときは親・村から支援を受けている。教科書も教育省から無償で配布される。
登録生徒数	2616名(内女児1247名)
学級数	56クラス (1年生9・2年生8・3年生9・4年生9・5年生12・6年生9) * 3部制：各部異なる先生が教えている
授業日	月・火・水・金・土
授業時間	1部 7:00-10:20 2部 10:30-13:40 3部 14:00-17:15
教員数	常勤70名 * 各部異なる教員が教えている
有資格者割合	100%
教員の学歴	中学校+養成校 約20% (年配の先生) 高校+養成校2年 約80% (若い先生) 大卒+養成校1年 2名
教員採用基準	教育局が選ぶので、学校では決められない。
現職研修	木曜日にミーティングをもち、その際に研修のようなことを行っている。カンボジアの教育は今どんどん変わっているので、教育省から新しい教授法などが出るとミーティングで伝えている。
進級テストについて	以前は進級テストがあったが、5年前に廃止された。 現在は中間・期末テストがあり、その平均点で進級の可否が決められる。 昔からの習慣であり、またそうしたテストがあることで子どもが勉強をたくさんするので良いと思う。
ドロップアウト率について	中間・期末テストはあまり難しくなく、94%の生徒が進級できる。大体の子どもが6年生まで行ける。以前は進級試験に合格できず進級できないこともあったが、現在は学校を辞める子どもが少なくなっている。 政府としては学校に来てほしいと思っている。ドロップアウトは進級試験の問題ではないと思う。国連会議でカンボジア政府が2015年までにEFAを達成することを目指すサインしており、現在は80-90%の子どもが学校に通っているはずだ。
子どもの安全や健康について	学校の周りに塀を作っており、子どもが外に出られない、かつ外部から人が入れないようにしている。2つ目としては、最近は麻薬の問題もあるので、授業中で教育している。健康についても食べ物についてなど授業の中で教育している。
保護者との情報交換	ある。入学式、期末試験後、卒業時。
保護者からの要望	特にはないが、学校から家庭に連絡をすることと、学校を安全な場にしてほしいと言うことくらい。
幼稚園卒園児について	幼稚園に通っていた子どもは教えやすい。文字が分からなくても学校生活に慣れているので、先生の話をよく聞く。 しかし、周辺に幼稚園がないため、幼稚園卒園児は年15-20人のみである。
小学校付設幼稚園について	政府から幼稚園を小学校内に作るようにと言われているが、まだ小学校の校舎も足りない状況なので作れない。 教育省も幼稚園を設置する方針なので、今後作らなくてはならないと思っている。
幼稚園について	幼児教育はとても大切だと思う。幼稚園はあまりないが、家庭内でも最近は幼児期の教育がされ始めている。幼児教育はいいと思うが、国の予算が幼稚園にはあまりないので、現在はNGOやコミュニティの援助がなければ運営できない状態である。



学校教育で一番大切なこと	すべて。大人になったときに仕事に役立つような技術(ミシン・コンピュータなど)を身につけられるようにしたほうが良いと思う。小学校なのでそれほど高度なことにはできないが、少しは教えて行ったほうがよいと思う。
--------------	---

資料5 ワットサンサムコサル小学校(公立)教員へのインタビュー結果

	5年生の先生	1年生特別クラスの先生
年齢	23歳	34歳
経験年数	3年	16年
最終学歴	高卒+養成学校(国立)2年	高卒+養成学校(国立)2年
教師になった理由	子どもが好き	先生という仕事が好き
担当の学年	4年生	1年生特別クラス(7-9歳位)*1年間で2年間分学習し、3年生になる
幼稚園に行っていた子はクラスにいるか。	多分いないと思う。	いない
9歳くらいまで学校に来ていなかった理由は？		学校に行っていなかったり、やめたりしていた子を校長が調べて、学校に来るように呼びかけた。
教える上で特に気をつけていること		気をつけないといけない。話を聞かない子がいる。
就学前教育の有無による差		知識・能力が多く、教えたことを吸収するのが早い。時間を守る・友達と遊ぶことに関しては特に違いがない。
保護者からの要望	あまりない。親のほうから連絡がくることはない。	
教える上で困っていること	教えるための教材が足りない	
教えている教科	社会・理科・数学・クメール語	
養成校で学んだことは役立っているか。	はい	
自分の子どもは幼稚園に行っているか？		小学校に入ってから先生に迷惑をかけないようにするために行かせている。午前英語&午後クメール語をやっている私立幼稚園。とても楽しんでいるようなので、嬉しい。